

高等学校新学習指導要領解説の公表を受けて - 外国語

平成 30 年 7 月 17 日に、「高等学校学習指導要領解説」および「高等学校学習指導要領 比較対照表」が公表されました。本稿では現行学習指導要領との違いを中心に、指導上のポイントをまとめています。

第 1 章 第 3 節 外国語科の目標

第 1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

→「統合的な言語活動」は、各領域に結びつける必要がある。

(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

→ (1)は、「何を理解しているか、何ができるか」という「知識及び技能」の習得に関わる目標として掲げたもの。アミは中学と比べ高度化した部分。

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

→ (2)は、「理解していること・できることをどう使うか」という「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わる目標として掲げたもの。アミは中学と

比べ高度化した部分。

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

→ (3)は、外国語科における「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」という「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関わる目標として掲げたもの。「自律的に」は、高校卒業後、社会に出たときに自律学習が可能になることを見据えている。

第 2 章 外国語科の各科目 第 1 節 総論

1 各科目の特徴

→ 必修の「英語コミュニケーションⅠ」は CEFR A2 レベル、「英語コミュニケーションⅡ・Ⅲ」及び「論理・表現」は CEFR B1 レベルまでとなる。
→「英語コミュニケーション」は、総合的な言語活動を通して 5 つの領域を総合的に扱うことを重視する科目。

従来「読む」中心に残りの領域が指導されてきたが、今後は「話題」を中心にして、5 領域それぞれがその話題を扱うようにする。

文法は、網羅的に学習するのではなく、5 領域の言語活動で必要となる文法事項をそれぞれ扱う。

→「論理・表現」は、発信力(話すこと・書くこと)の育成を強化する科目。論理の展開や構成、効果的な表現などの知識を活用する。スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション等、まとまりのある文章を書く。

これまで「文法」中心の授業が多かったが、「コミュニケーション英語」同様、こちらも各領域の中心を「話題」とし、その話題を言語活動の中で掘り下げるようにする。この科目の「読む」内容は、発信活動に活用するものなので、内容理解に時間をかけなくてよい難易度のもの。

2 話題について

→ 中学の指導要領と同様、話題は「日常的」「社会的」の2つに分かれているが、中学よりも深く多面的・多角的な考察を行う。また、内容が深まるので語彙・表現も高度化する。

3 支援について

→ 指導要領に書かれている「支援」＝「日本語の指導」ではない。

言語活動を行う際の支援は、次のようなもの：

- ・話す速度の調整
 - ・既習の表現に言い換える
 - ・会話のデモンストレーションを見せる
 - ・事前準備として、ブレインストーミングをするなど
- 徐々に支援を減らし、自律的学習へ向かうように指導する。

4 使用する語句や文について

「英語コミュニケーションⅠ」及び「論理・表現Ⅰ」では、中学校における学習の中で触れてきた「簡単な語句や文」も含め、両科目で学習する語彙や表現を用いて言語活動を行うことから「基本的な語句や文を用いて」とした。「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅱ」では、それまでに学習した語彙や表現などを活用して、より詳細な説明をすることが求められることから、「多様な語句や文を用いて」とした。「英語コミュニケーションⅢ」及び「論理・表現Ⅲ」では、それまでに学習した語彙や表現を、より効果的に用いる必要があることから「多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて」とした。

→ 既に知っている語句を用いて、後述のように新たに追加された「前置詞」や「接続詞」を使って表現できるようにする。

5 言語活動について

→ 外国語科の目標では、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」、「書くこと」の言語活動とこれらを結び付けた言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することが示されている。

具体的には、「聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。」、「また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。」などのように、一つの領域を他の複数の領域と結び付けた統合的な言語活動を行えるようにする。

第2章 外国語科の各科目

第2節 英語コミュニケーションⅠ

1 目標

→ (1) 聞くこと、(2) 読むこと、(3) 話すこと〔やり取り〕、(4) 話すこと〔発表〕、(5) 書くこと の5領域について、「日常的な話題」と「社会的な話題」に分けて目標を設定。

英語コミュニケーションのⅠ～Ⅲでの段階的な高度化、到達点については、「高等学校学習指導要領解説」pp.223-225 に示された通り。

2 内容

〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

→ 以下は、新指導要領で新たに加えられたもの：

- ・イ 句読法
- ・エ 文構造及び文法事項
 - (イ) 文法事項 d 接続詞の用法
- ・エ 文構造及び文法事項
 - (イ) 文法事項 f 前置詞の用法

〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり、自分自身の考えをまとめたりすること。

→「受容する力」について述べられている。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること。

→「統合的な力」について述べられている。

ウ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、要点や意図などを明確にしながら、英語で話したり書いたりして、情報や自分自身の考えなどを伝え合うこと。

→「伝え合う力」について述べられている。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

イ 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、話される速さが調整されたり、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら、対話や放送などから必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

→「話される速さが調整されたり、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら」は、支援の例。

→「対話や放送など」は、テキストタイプ。これはあくまで一例で必須ではなく、様々なテキストタイプを扱うことが求められる。

→「また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動」＝統合的な言語活動。

→「指導要領解説」p.43に次の「授業の展開例」が一例として記載されている。

▽授業展開例

- ① ある日常的な話題について、生徒の興味や理解を促すために、教師とALTが行う対話を聞いたり、短い動画を視聴したりする。
- ② ①で聞いたり観たりした内容について、生徒間で意見を交換し合う。
- ③ 聞いている間に、または聞いた後に聞き取った内容をメモに取ったり表にまとめたりする。その際、教師が例えば「誰が、どこで、何をするか」等の実際に聞き取る必要のある情報を事前に提示することなども考えられる。
- ④ ペアやグループになって、聞き取ったメモを基に、聞いた内容を口頭で要約する。
- ⑤ 教師と生徒のやり取りを通して聞き取った内容について確認する。

ウ 読むこと

→ 中学校の「読むこと」で、黙読と音読の二つの読み方が扱われているため、高等学校では「読むこと」の目標を達成するための活動例として改めて「音読」は取り上げられてはいない。
音読の指導を行う際には、書かれた文章の本来の目的や内容などを確認した上で、そもそも音読することがふさわしいのか、ふさわしいとすればその音読はどのような目的で行われるのかを明確に生徒に意識させた上で指導することが重要である。

(イ) 社会的な話題について、基本的な語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを十分に聞いたり読んだりしながら、説明文や論証文などから必要な情報を読み取り、概要や要点を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

→ 論証文とは、問題に関して自分の意見を明確にし、理由付けや具体例などの証拠を用いてその意見を支え、自分の意見が優位であることを主張する文。「発信」のモデルになるようなテキストである。

第2章 外国語科の各科目

第5節 論理・表現Ⅰ

1 目標

→ 話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書く

ことの三つの領域別に目標を設定。主に発信に係る言語活動を重点的に行うことになるが、活動の形態や課題を変えながら繰り返し行うことが必要。また、発信するために必要なモデルは豊富に与える必要があり、それらのモデルを分析するなどして、論理展開や構成及び表現について学ぶことができるようにする。

論理・表現Ⅰ～Ⅲでの段階的な高度化、到達点については「高等学校学習指導要領解説」pp.229-230に示された通り。

2 内容

〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

→ 扱う言語材料については、「英語コミュニケーションⅠ」で示したものと同様、「語、連語及び慣用表現」は、小中学校で学習した語+400～600語の新語となる。ただし、語や文法事項については、三領域別の目標を達成する上で必要なものを適宜取り扱う。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること。

→ 「統合的な力」について述べられている。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして、要点や意図などを明確にしながら、情報や自分自身の考えなどを伝え合うこと。

→ 「伝え合う力」について述べられている。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

ア 話すこと〔やり取り〕

→ 実際に生活の中で使うような内容のものにする。インフォメーションギャップやロールプレイの活動を行ったり、課題解決のためのまとまりのある

情報の整理・要約をしたりする。

→ ディベート、ディスカッションはそれぞれ分けて行う。最初は日常的话题で簡単なものから扱うようにし、段々と社会的な内容も扱うようにする。

イ 話すこと〔発表〕

→ スピーチやプレゼンテーションは、ディベート、ディスカッションと同様に、指導要領では決まったフォーマットについて述べられてはいない。例えばスピーチの場合、いきなり長いスピーチを大勢の前で行うのではなく、ペアや小さなグループから始めるなどして、段階的に少しずつ高度化していく必要がある。

ウ 書くこと

(イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

→ モデルを示し、生徒がそれを分析しながら自分で書けるようにする。単に1,2文の例を示すだけでは、生徒は書けるようにならないだろう。実際に生徒がモデルで扱った表現を使えるようなものにする工夫が必要。

▽授業展開例

「高等学校学習指導要領解説」p.99に一例が挙げられている。

「発想」—ブレインストーミング／モデルとなる
↓
アウトラインの分析／アウトラインを書く
「書く」—モデルとなる文章の分析／必要な表現
↓
について学ぶ／自分で実際に書く
「推敲」—書いたものを自分で読み返す／ペアで
読み合う／内容の修正や間違いの訂正

高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数

〔 改 訂 〕

教科	科 目	標準 単位数	必修 科目
国語	現代の国語	2	○
	言語文化	2	○
	論理国語	4	
	文学国語	4	
	国語表現	4	
	古典探究	4	
地理 歴史	地理総合	2	○
	地理探究	3	
	歴史総合	2	○
	日本史探究	3	
	世界史探究	3	
公民	公共	2	○
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学C	2	
理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む2科目又は基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
	地学	4	
保健 体育	体育	7～8	○
	保健	2	○
芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	○2単位まで減可
	英語コミュニケーションⅡ	4	
	英語コミュニケーションⅢ	4	
	論理・表現Ⅰ	2	
	論理・表現Ⅱ	2	
	論理・表現Ⅲ	2	
家庭	家庭基礎	2	○
	家庭総合	4	
情報	情報Ⅰ	2	○
	情報Ⅱ	2	
理数	理数探究基礎	1	
	理数探究	2～5	
総合的な探究の時間		3～6	○2単位まで減可

〔 現 行 〕

教科	科 目	標準 単位数	必修 科目
国語	国語総合	4	○2単位まで減可
	国語表現	3	
	現代文A	2	
	現代文B	4	
	古典A	2	
	古典B	4	
地理 歴史	世界史A	2	○
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	5	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学活用	2	
理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む2科目又は基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
	地学	4	
保健 体育	理科課題研究	1	
保健 体育	体育	7～8	○
	保健	2	○
芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	○2単位まで減可
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	
	コミュニケーション英語Ⅱ	4	
	コミュニケーション英語Ⅲ	4	
	英語表現Ⅰ	2	
	英語表現Ⅱ	4	
家庭	英語会話	2	○
	家庭基礎	2	
	家庭総合	4	
情報	生活デザイン	4	○
	社会と情報	2	
	情報の科学	2	
総合的な学習の時間		3～6	○2単位まで減可